

さんだの水道について

水道のしくみ

水道水は、ダムや川から取った水を浄水場で安全でおいしい水にして、市民のみなさまにお使いいただいています。浄水場は、水道水をいつでも使っていただけるように、1年365日、1日24時間休むことなく動き続けています。

浄水場でつくられたきれいな水道水は、市内にはりめぐらされた配水管によって市民のみなさまにお届けしています。

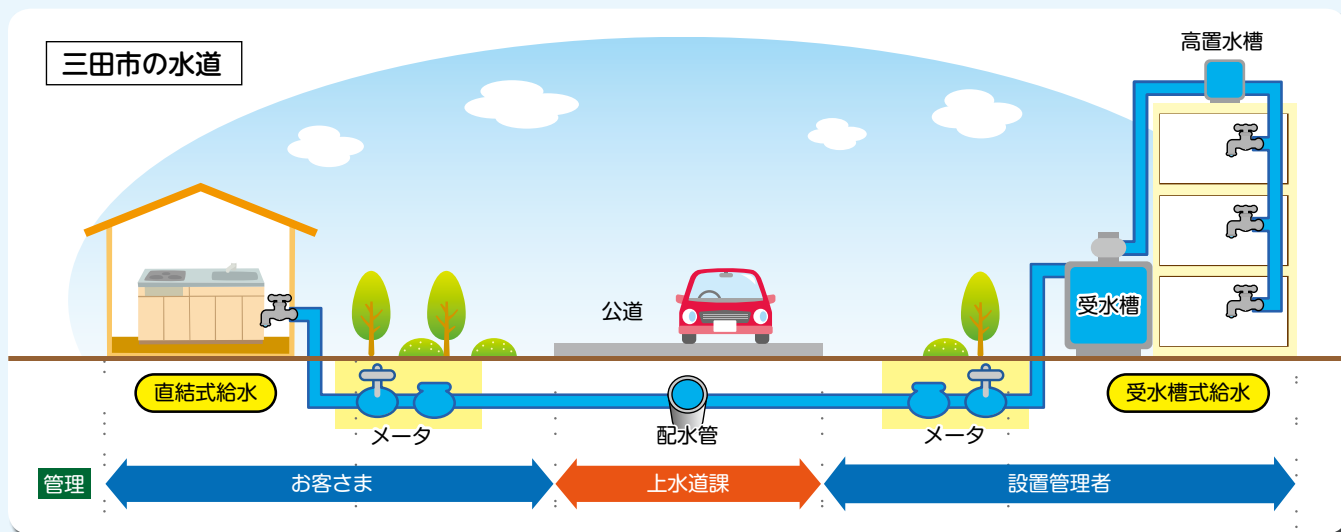


さんだの水道のあゆみ

三田市は水源が武庫川しかないため雨が少ないとすぐに水が不足し、時間給水を実施することもありました。

その一方、大雨が降ると武庫川が増水して水害が引き起こされるようなことが何度もありました。

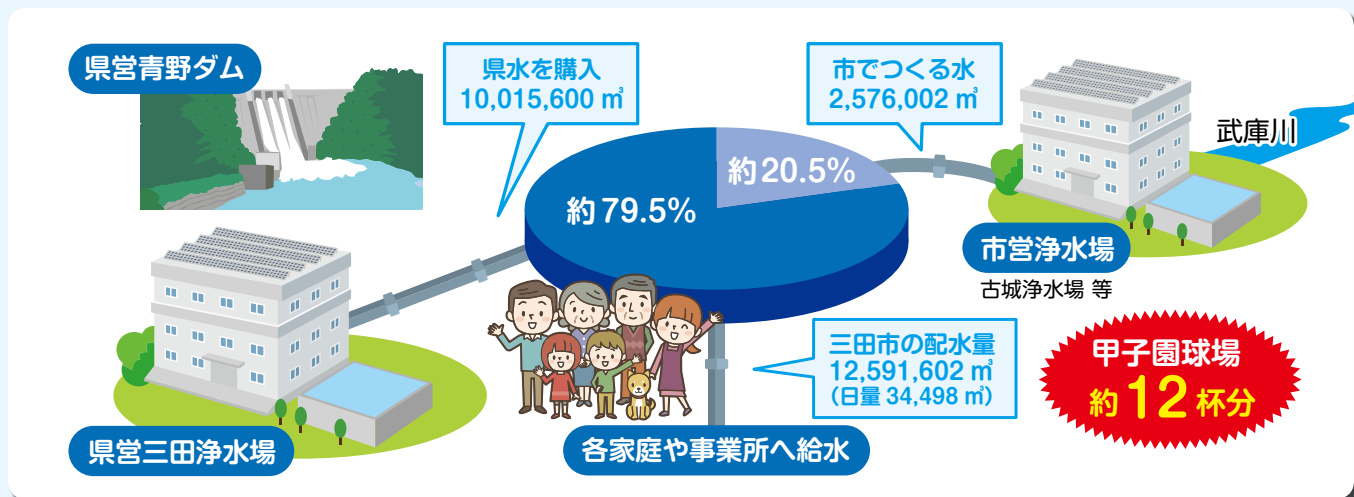
こうした水と闘ってきた歴史を踏まえて、水を調節するためのダム建設が計画され、昭和61年に兵庫県により青野ダムが完成しました。これにより過去幾度となく悩まされてきた水問題から三田市は解放されることとなったのです。



さんだの水道の特徴

青野ダムが兵庫県によって建設されたことから、三田市の水道水は古城浄水場などで作られる自己でまかなう水（自己水）と、青野ダムに蓄えられた水をもとに県営三田浄水場で作られた水を購入しているもの（県水）の2種類あり、その比率は平成30年度で自己水：県水＝20.5%：79.5%となっています。

もし、県水を買うのをやめて自己水で全てまかなおうとすると独自でダムを造る必要があり、その費用は、ばく大なものになるだけでなく水道料金から回収しなければならなくなるため、現状のとおり県水を買うほうが経営上有利なのです。



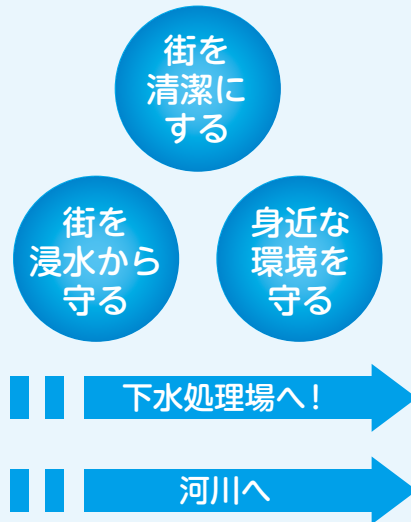
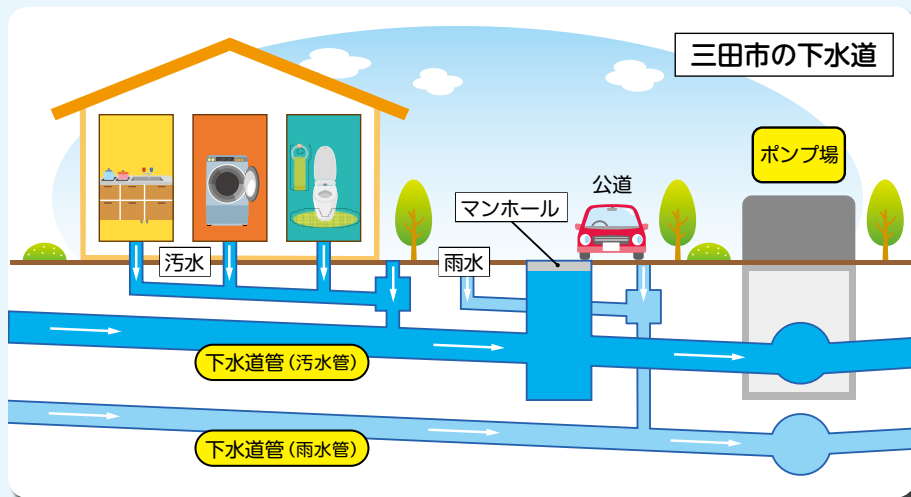
下水道のしくみ

さんだの下水道

市内の下水道は昭和 53 年から事業が始まり、昭和 60 年に武庫川上流浄化センターが下水処理を開始し、公共下水道が整備されました。その後、整備エリアが拡大されると共に、生活排水処理計画に基づき、「農業集落排水事業」や「コミュニティ・プラント事業」を順次実施し、ほぼ計画区域全域で下水道が普及しています。



下水道の役割



下水道は安全で快適な生活環境を維持するため、重要な役割を果たしています。例えば、トイレや台所などの汚水は汚水管を通り、処理場できれいにして河川へ放流します。また、雨水は市街地では道路側溝から雨水管に入り河川へ流れ、浸水を防いでいます。

さんだの下水道の特徴

都市部と農村部では下水処理の仕組みが異なり、4種類の事業に分かれています。

